

No. 1190

ゴッホ展開かれる

—東京・上野—

142

都合にも本格的な秋がやってきました。

東京、上野の国立西洋美術館では美術の秋にちなみ中日新聞、東京新聞が主催して、炎の人、ゴッホ展が開かれました。

開会式は10月29日、ゴッホの故国であるオランダから文化省文化局長を迎えて行われました。

アイヴィン・パークマン駐日オランダ大使夫人のテープカットで招待者はさっそく展示作品を鑑賞、ゴッホ展は、1658年につづいて2度目だが今回は油絵に加えて、水彩、デッサンと多彩な作品が展示されています。ゴッホは27才の時から約10年間で1700点余りの作品を残しています。今回出展されているのはそのうちの百点あまりゴッホは日本の浮世絵に特に興味を示しただけにその作品は日本人にとって親しみ深い。ゴッホ展は12月19日まで開かれている予定です。

文化交流は語学から

132

東京霞が関の政府刊行物センター。昭和31年11月に閣議できめられてから今年20年目を迎えた。

刊行物も時代の流れにつれて多種多様化し、国民の貴重な資料になっている。東京府中市のある日本語学校、ここはわが国と諸外国との教育、文化の国際交流をはかり友好と親善を目的として作られたもの。

現在ここには31人の留学生在が日本語を学んでいる。ここで使われている「外国人のための日本語読本」は政府刊行物のひとつ学生たちは世界でも難しいと言われていた日本語をマスターしようと懸命に取り組んでいる。入学以来8カ月ようやくやさしい会話ができるようになった。国際間の文化交流もまずは語学からスタートだ。

22歳の観閲式

—埼玉・朝霞—

195

自衛隊の創立を記念する51年度の中央観閲式が10月31日、埼玉県朝霞市の陸上自衛隊、朝霞訓練場で行なわれました。式典には約5700人の隊員と車両250両、航空機75機が参加。三木首相は「侵さず、侵されずの基本精神に基づいて防衛に徹するのが自衛隊の基本理念である」と訓辞。

観閲行進では防衛大生を先頭に4200人がパレード。今年は防衛医科大生176人も初参加。昭和29年の発足から満22年目を迎えた自衛隊。量から質へと従来の路線を大幅に軌道修正するなど、自衛隊は今、大きな転機に立たされています。